

別冊： 令和6年度医学部卒業生調査結果に基づく教育評価

医学部教育評価委員会 卒業生調査検討部会

1. はじめに

卒業生が社会でどのように活躍しているか、大学で身に付けた能力が卒業後に活かされているか、といった卒業生の実績は、大学の教育成果の重要な指標のひとつである。また、卒業後一定の職務経験を積んだ卒業生からの大学教育に対する意見は、教育の改善・向上のための重要な情報資源となることから、本学医学部では令和4年度より定期的に卒業生調査を実施している。

「令和6年度医学部卒業生調査結果」に基づく本学医学部の教育評価を行った。「教学マネジメント指針」（中央教育審議会大学分科会、2020）¹⁾および「医学教育分野別評価基準 Ver.2.36」（日本医学教育評価機構、2023）²⁾を参考に、具体的な評価の観点として以下を設定した。

2. 卒業生調査結果に基づく医学部の教育評価の観点

- (1) 医師・研究者を育成するという医学部のディプロマ・ポリシー（DP）および使命の達成状況
 - a. 就業率（臨床研修従事率）
 - b. 臨床研修後の進路（専門医プログラム・大学院進学の予定）
- (2) 卒業生の県内定着状況
 - a. 就業者の県内就業率
- (3) DPに定められた卒業時到達目標（コンピテンシー）の達成状況と職務への貢献度
 - a. コンピテンシー達成状況（卒業生自己評価 + 臨床研修病院からの評価）
 - b. コンピテンシーの職務への貢献度（卒業生自己評価）
- (4) 医学部で受けた教育の職務への貢献度
 - a. 各教育分野の職務への貢献度（卒業生自己評価）

3. 卒業生調査の概要 * 詳細は別添「令和6年度医学部卒業生調査結果」（本編）を参照

a. 対象

- (1) 医学部同窓会に登録している卒後1、2年目卒業生 250人
- (2) 上記卒業生のうち、臨床研修先情報がある者（230人）の勤務先の指導医等

b. 回収率

- | | |
|-----------------------------------|------------------|
| (1) 医学部同窓会に登録している卒後1、2年目卒業生 | 34.8% (87/250人) |
| (2) 上記卒業生のうち、臨床研修先情報がある者の勤務先の指導医等 | 65.2% (150/230人) |

参考：R4年度調査回収率

- | | |
|-----------------------------------|------------------|
| (1) 医学部同窓会に登録している卒後1、2年目卒業生 | 48.4% (122/252人) |
| (2) 上記卒業生のうち、臨床研修先情報がある者の勤務先の指導医等 | 73.0% (184/252人) |

4. 回答者の属性

a. 出身地 本編 p.3

<R6年度調査>

卒業年	卒後年数	県内出身	県外出身	未回答	計	県内出身割合
2024年	1	16	29	0	45	36%
2023年	2	15	27	0	42	36%
計	—	31	56	0	87	36%

<参考:R4 年度調査>

卒業年	卒後年数	県内出身	県外出身	未回答	計	県内出身割合
2022年	1	22	37	0	59	37%
2021年	2	28	35	0	63	44%
計	—	50	72	0	122	41%

回答者の県内出身者の割合は、卒後1年目（2024年卒）、卒後2年目（2023年卒）、全体のすべてで36%であり、前回R4年度調査の県内出身割合（全体41%）と比べるとやや少なかった。

R6年度調査対象卒業生の卒業時の情報としては、県内出身割合が2024年卒30%、2023年卒36%、全体33%であることから、回答者の県内出身割合は卒後1年目（2024年卒）と全体で実際よりも多いことがわかる。

b. 性別 本編 p.4

<R6年度調査>

卒業年	卒後年数	男性	女性	回答しない	計	女性割合
2024年	1	23	21	1	45	47%
2023年	2	25	15	2	42	36%
計	—	48	36	3	87	41%

<参考>R4 年度調査

卒業年	卒後年数	男性	女性	回答しない	計	女性割合
2022年	1	36	23	0	59	39%
2021年	2	41	21	1	63	33%
計	—	77	44	1	122	36%

回答者の女性割合は、卒後1年目（2024年卒）47%、卒後2年目（2023年卒）36%、全体41%であり、R4年度調査の女性割合（全体36%）に比べるとやや多かった。

R6年度調査対象卒業生の卒業時の情報としては、女性割合が2024年卒35%、2023年卒34%、全体35%であることから、回答者の女性割合が実際よりも多いことがわかる。

5. 評価結果

(1) 医師・研究者を育成するというDPおよび使命の達成状況

a. 就業率(臨床研修従事率) 本編 p.4

<R6年度調査>

卒業年	卒後年数	臨床研修従事	その他	計	臨床研修従事率
2023-2024年	卒後1-2年	85	2	87	98%

<参考>R4 年度調査

卒業年	卒後年数	臨床研修従事	その他	計	臨床研修従事率
2021-2022年	卒後1-2年	122	選択肢なし	122	100%

回答者の 98% (85/87 人) が就業 (臨床研修) 中であった。このことから、回答の範囲において、医師の育成や医学・医療における社会貢献という医学部の DP および使命を十分に達成していると評価できる。

b. 臨床研修後の進路 本編 p.8-10

臨床研修(2年間)を終えた直後の専門医プログラム予定

<R6年度調査>

卒業年	卒後年数	本学附属病院を基幹病院とする専門医プログラムを受ける予定	県内病院 (本学附属病院以外) を基幹病院とする専門医プログラムを受ける予定	県外病院を基幹病院とする専門医プログラムを受ける予定	専門医プログラムを受ける予定だが、基幹病院は未定	専門医プログラムは受けない予定	未定	計	専門医プログラム予定者の割合
2023-2024年	卒後1-2年	34	7	33	9	0	2	85	98%
		83							

<参考>R4 年度調査

卒業年	卒後年数	本学附属病院を基幹病院とする専門医プログラムを受ける予定	県内病院 (本学附属病院以外) を基幹病院とする専門医プログラムを受ける予定	県外病院を基幹病院とする専門医プログラムを受ける予定	専門医プログラムを受ける予定だが、基幹病院は未定	専門医プログラムは受けない予定	未定	計	専門医プログラム予定者の割合
2021-2022年	卒後1-2年	61	4	37	13	0	7	122	94%
		115							

臨床研修中の卒業生 85 人のうち専門医プログラムを受ける予定と回答した者は 98% (83/85 人) で、未定の 2 人を除いた全員が専門医プログラムを受ける予定であり、R4 年度調査の 94% と大きな差はなかった。

R4 年度調査と比較して本学附属病院を基幹病院とする専門医プログラムを受ける予定の割合がやや減少し (R4: 50% (61/122 人) → R6: 40% (34/85 人))、県外病院を基幹病院とする専門医プログラムを受ける予定の割合が増加したのは (R4: 30% (37/122) → R6: 39% (33/85))、回答者の県内出身者および県内就業研修医の割合が R4 年度よりも少なかったことが影響していると考えられる。

大学院進学予定

<R6年度調査> : 大学院進学予定 ※R4 年度から質問方法を変更

卒業年	卒後年数	臨床研修を終えた直後に大学院へ進学する予定	臨床研修後、数年以降に台が鶴院へ進学する予定	大学院へ進学する予定だが時期は未定	現在大学院へ進学している	大学院へ進学する予定はない	未定	計	大学院進学予定者の割合
2023-2024年	卒後1-2年	1	9	23	1	25	26	85	39%
33									
進学予定の大学院									
本学大学院	本学以外の大学院	未定							
12	17	4							
33									

<参考>R4 年度調査 : 臨床研修(2年間)を終えた直後の大学院進学予定

卒業年	卒後年数	本学大学院へ進学する予定	本学以外の大学院へ進学する予定	大学院へ進学する予定だが、進学先の大学院は未定	現在大学院へ進学している	大学院へ進学する予定はない	未定	計	臨床研修直後の大学院進学予定者の割合
2021-2022年	卒後1-2年	4	7	12	0	49	50	122	19%
		23							

大学院に進学する予定と回答した者は 39% (33/85 人) で、そのうち 70% (23/33 人) が進学時期は未定とした。R4 年度調査では臨床研修を終えた直後の進学予定を聞いたため、大学院への進学予定は 19% と少なかったが、今回、将来の進学予定を質問したことで進学意向を持つ者がより多くなったと思われる。

(2) 卒業生の県内定着状況

a. 就業者の県内就業率 本編 p.2, 3

<R6年度調査>

卒業年	卒後年数	県内就業者	就業者	県内就業率	県内出身割合
2023-2024年	卒後1-2年	53	85	62%	36%

卒業年	卒後年数	県内出身者			県外出身者		
		県内就業者	就業者	県内就職率	県内就業者	就業者	県内就職率
2023-2024年	卒後1-2年	27	30	90%	26	55	47%

<参考>R4 年度調査

卒業年	卒後年数	県内就業者	就業者	県内就業率	県内出身割合
2021-2022年	卒後1-2年	89	122	73%	41%

卒業年	卒後年数	県内出身者			県外出身者		
		県内就業者	就業者	県内就職率	県内就業者	就業者	県内就職率
2021-2022年	卒後1-2年	47	50	94%	42	72	58%

県内で就業している者は 62% (53/85 人) で、県内/県外出身者別にみると県内出身者の県内就業率 90% (27/30 人) が県外出身者の県内就業率 47% (26/55 人) に比べて高かった R4 年度調査も同様の傾向であったが、R4 年度に比べると全体的に県内就業率はやや低かった。回答者の県内出身者割合が R4 年度よりも少なかったことが影響している可能性がある。

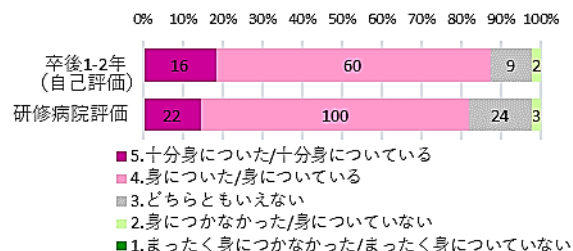
回答者の 6 割が県内で就業していたことから、回答の範囲において、県立医科大学の医学部として県内の医療を支えるという使命を一定程度果たしていると評価できる。

(3) DP に定められた卒業時到達目標(コンピテンシー)の達成状況と職務への貢献度

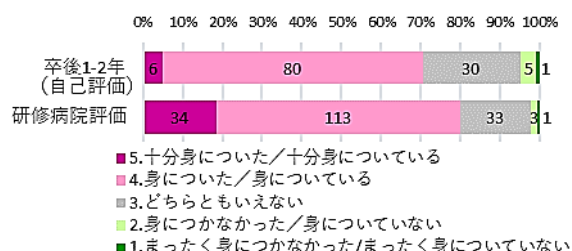
a. コンピテンシー達成状況 本編 p.5,14

1 プロフェッショナリズム

<R6年度調査>

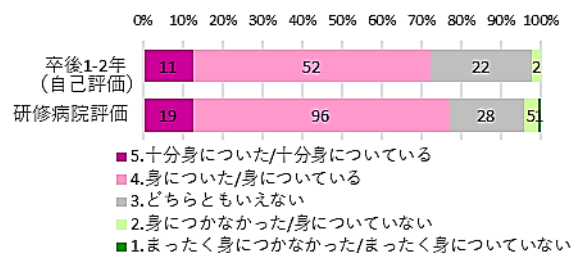


<参考:R4 年度調査>

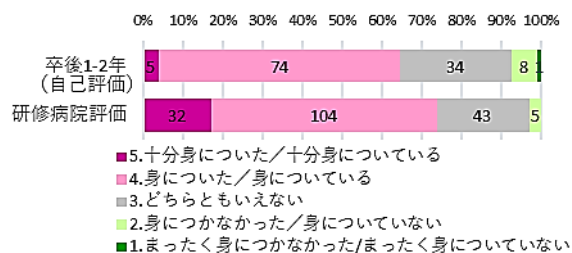


2 生涯教育

<R6年度調査>

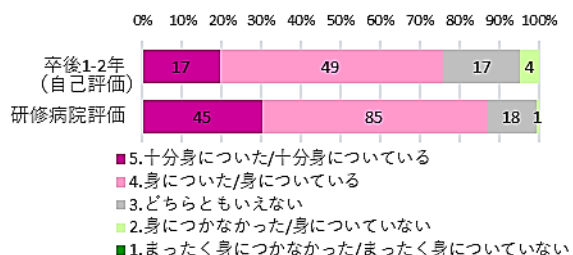


<参考:R4 年度調査>

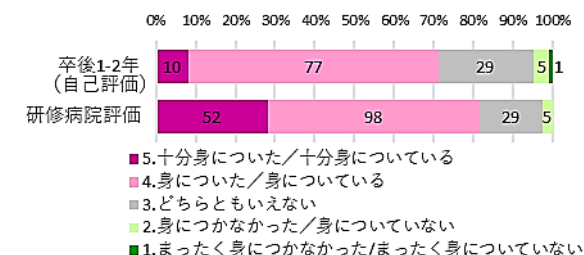


3 コミュニケーション

<R6年度調査>

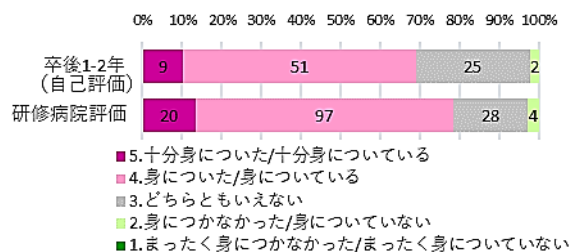


<参考:R4 年度調査>

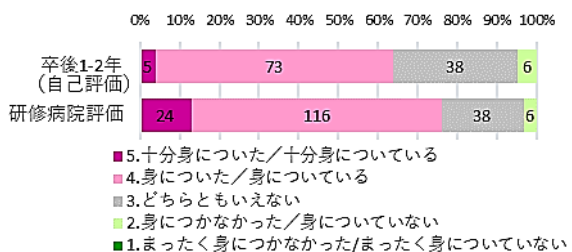


4 知識とその応用

<R6年度調査>

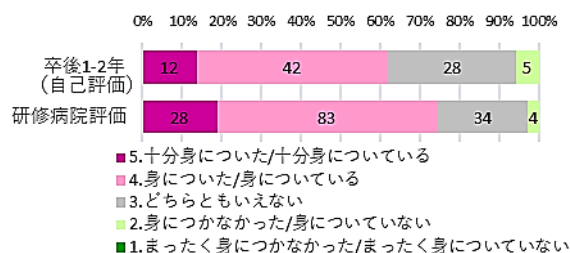


<参考:R4 年度調査>

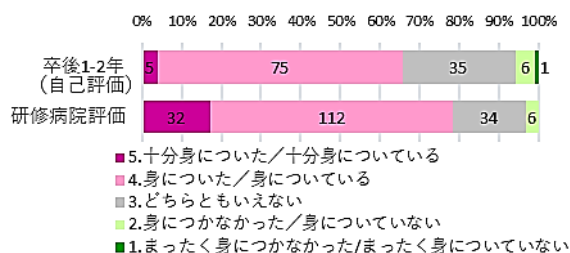


5 診療の実践

<R6年度調査>

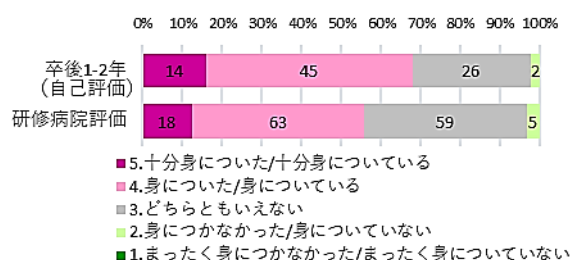


<参考:R4 年度調査>

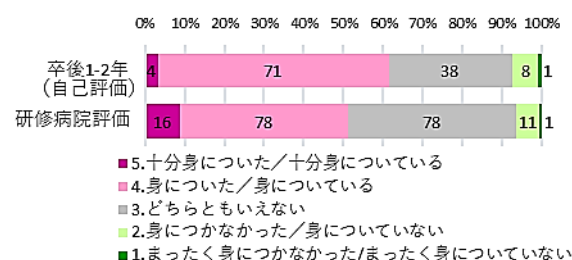


6 医療と社会・地域(住民健康・患者診療への貢献)

<R6年度調査>

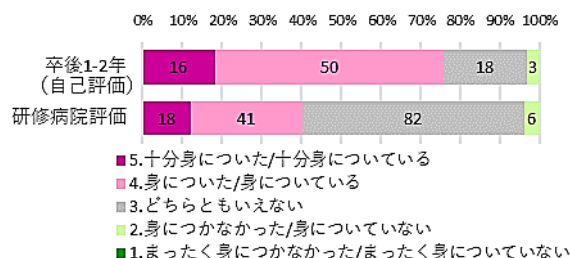


<参考:R4 年度調査>

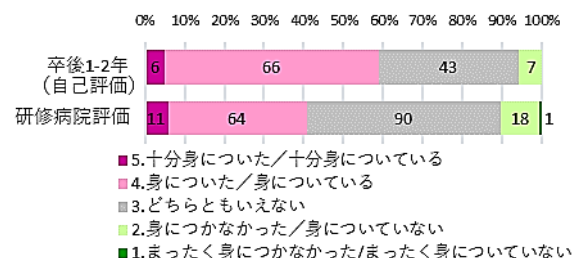


7 医療と社会・地域(福島の災害からの学び)

<R6年度調査>

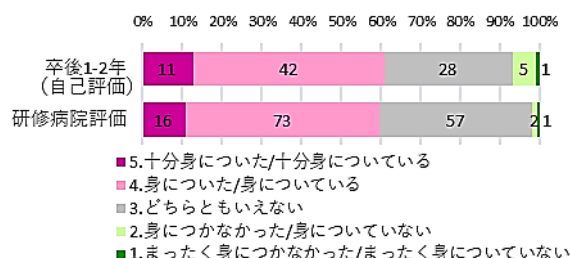


<参考:R4 年度調査>

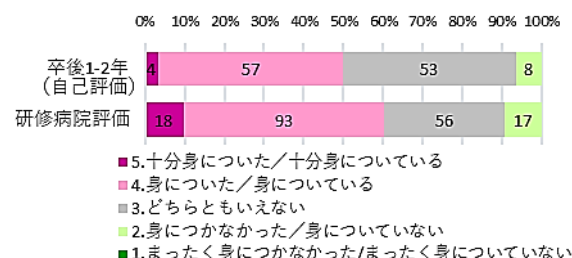


8 医学／科学の発展への貢献

<R6年度調査>



<参考:R4 年度調査>



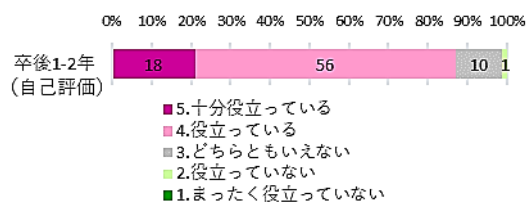
卒業時におけるコンピテンシーの達成状況について、R6 年度はいずれのコンピテンシーも「十分身についた」または「身についた」と自己評価した者の割合が6～8割台であり、全般的に R4 年度より高い評価であった。研修病院の指導医等による評価においては、「1 プロフェッショナリズム」、「2 生涯教育」、「3 コミュニケーション」、「4 知識とその応用」、「5 診療の実践」において7～8割の卒業生が「十分身についている」または「身についている」と評価された。「6 医療と社会・地域（住民健康・患者診療への貢献）」

康・患者診療への貢献)」、「7 医療と社会・地域 (福島からの学び)」と「8 医学/科学への発展への貢献」では「十分身についている」または「身についている」と評価された学生が4～6割であり、概ね R4 年度の傾向と一致していた。

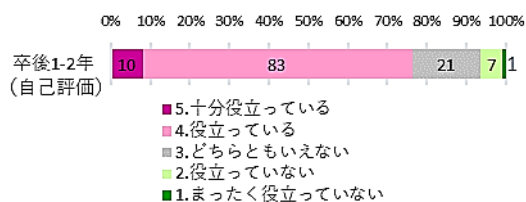
b. コンピテンシーの職務への貢献度 本編 p.6

1 プロフェッショナリズム

<R6年度調査>

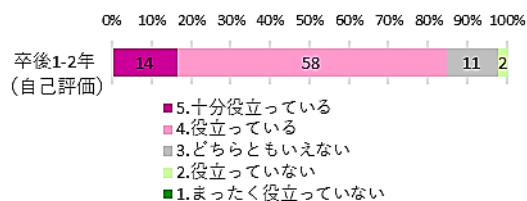


<参考:R4 年度調査>

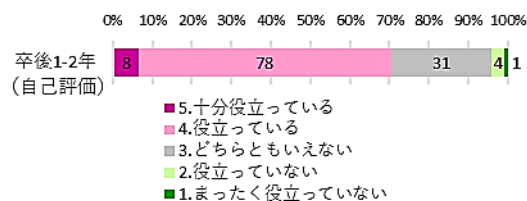


2 生涯教育

<R6年度調査>

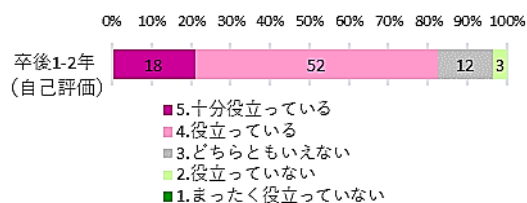


<参考:R4 年度調査>

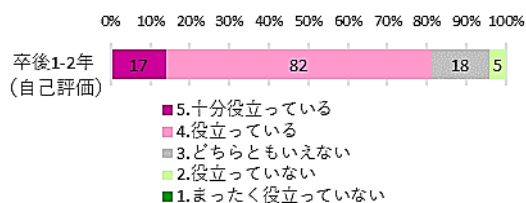


3 コミュニケーション

<R6年度調査>

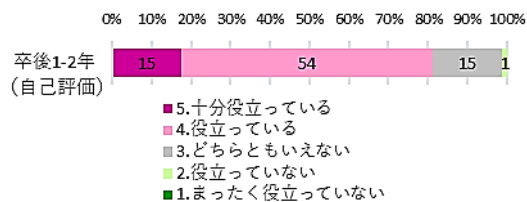


<参考:R4 年度調査>

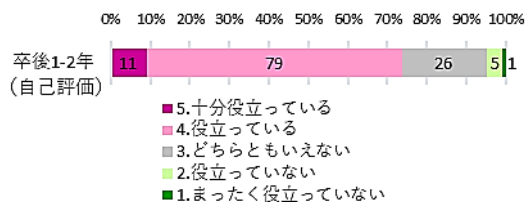


4 知識とその応用

<R6年度調査>

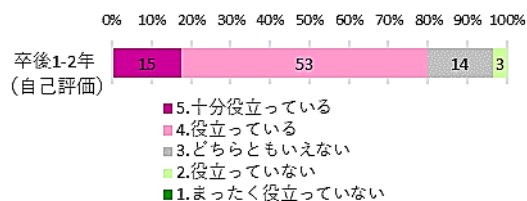


<参考:R4 年度調査>

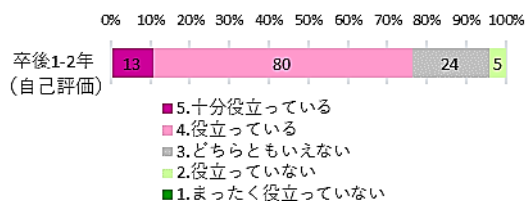


5 診療の実践

<R6年度調査>

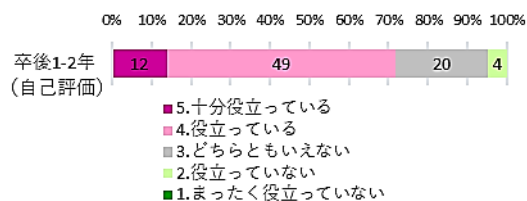


<参考:R4 年度調査>

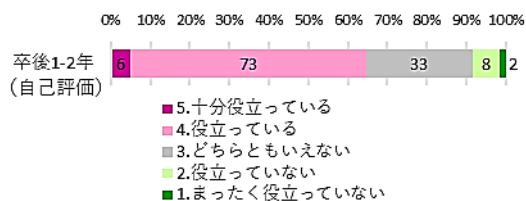


6 医療と社会・地域(住民健康・患者診療への貢献)

<R6年度調査>

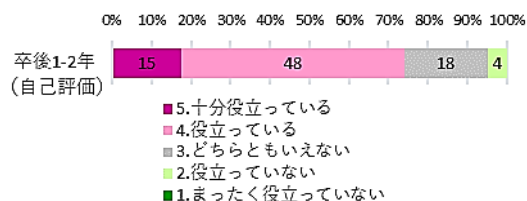


<参考:R4 年度調査>

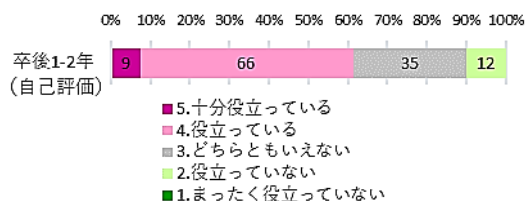


7 医療と社会・地域(福島の災害からの学び)

<R6年度調査>

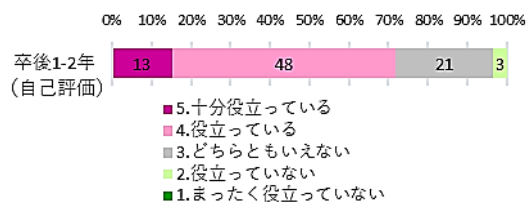


<参考:R4 年度調査>

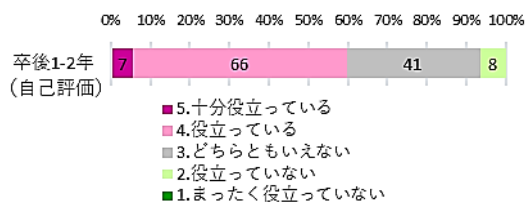


8 医学／科学の発展への貢献

<R6年度調査>



<参考:R4 年度調査>



身につけたコンピテンシーが現在の職務に役立っているかについて、R6 年度はいずれのコンピテンシーも「十分役立っている」または「役立っている」と評価した者の割合が 7～8 割台であり、概ね職務への貢献度は良好であった。「1 プロフェッショナルリズム」、「2 生涯教育」、「3 コミュニケーション」、「4 知識とその応用」、「5 診療の実践」の 5 項目に比べて「6 医療と社会・地域（住民健康・患者診療への貢献）」、「7 医療と社会・地域（福島の災害からの学び）」、「8 医学/科学への発展への貢献」の 3 項目の評価が相対的に低い点は R4 年度と同様の傾向であったが、全般的に R6 年度の方が高い評価であった。

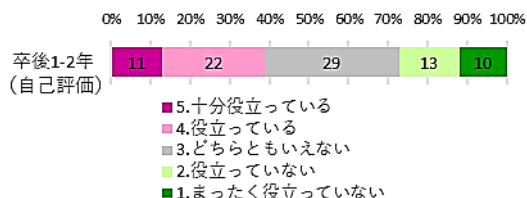
以上から、回答の範囲において、DP に定められたコンピテンシーはいずれも卒業時に概ね達成されており、卒業後の職務においても概ね貢献していると評価できる。

(4) 医学部で受けた教育の職務への貢献度 本編 p.11

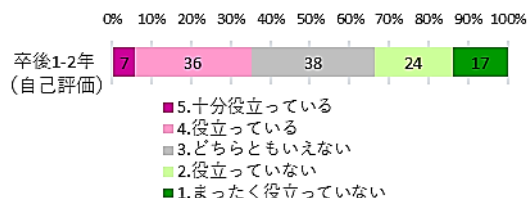
a. 各教育分野の職務への貢献度

1 総合科学系教育（語学）

<R6年度調査>

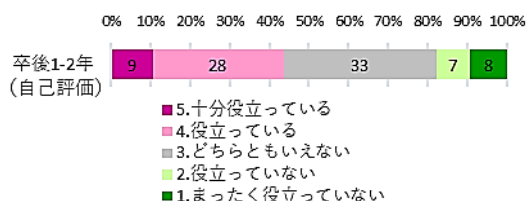


<参考:R4 年度調査>

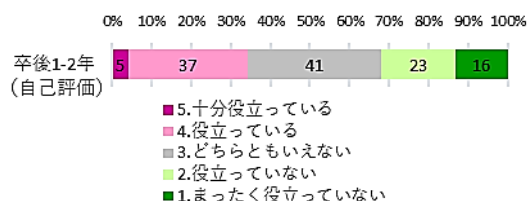


2 総合科学系教育(人文・社会科学、自然科学)

<R6年度調査>

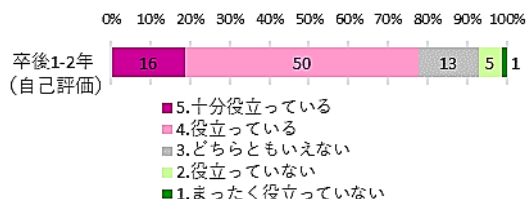


<参考:R4 年度調査>

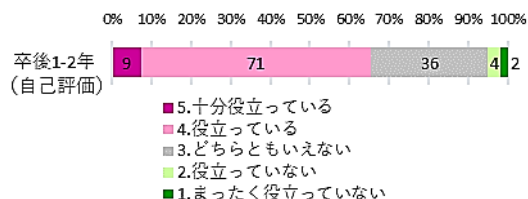


3 生命科学・社会医学系教育

<R6年度調査>

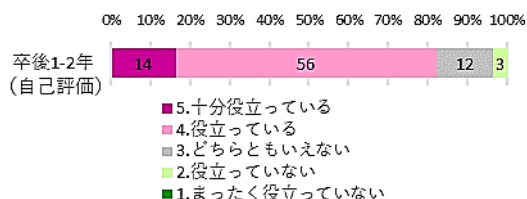


<参考:R4 年度調査>

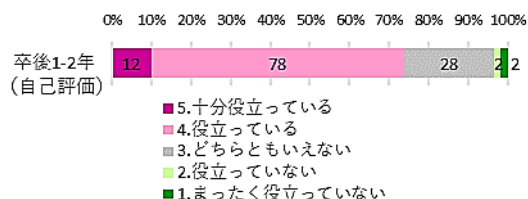


4 臨床医学系教育(BSL は含まない)

<R6年度調査>

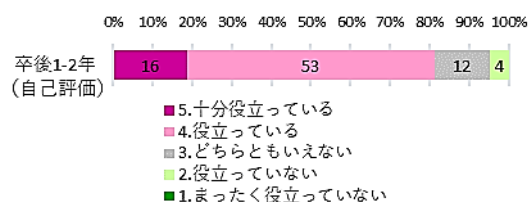


<参考:R4 年度調査>

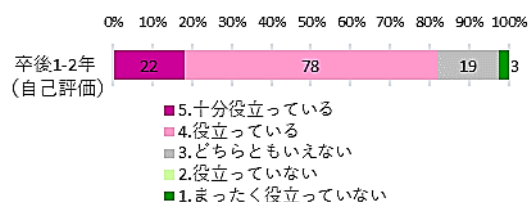


5 臨床実習 (BSL)

<R6年度調査>

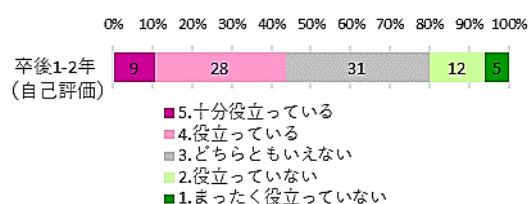


<参考:R4 年度調査>

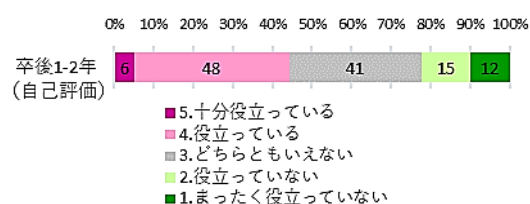


6 総合教育(テュートリアル、地域実習、科学リテラシー、行動科学など)

<R6年度調査>



<参考:R4 年度調査>



医学部で受けた教育の職務への貢献度について、「1 総合科学系教育 (語学)」、「2 総合科学系教育 (人文・社会科学、自然科学)」と「6 総合教育」は「十分役立っている」または「役立っている」の割合が4割前後とR4年度同様に少ない傾向であったが、「3 生命科学・社会医学系教育」、「4 臨床医学系教育 (BSL は含まない)」、「5 臨床実習 (BSL)」については7割以上と職務への貢献度が高かった。

「3 生命科学・社会医学系教育」と「4 臨床医学系教育 (BSL は含まない)」については、R4年度と比べて「十分役立っている」または「役立っている」の割合がやや増えており、その他の教育分野についてはあまり変化がなかった。

診療に関連が深い生命科学・社会医学 (基礎医学) や臨床医学に関する教育については、概ね評価が高く、医学部で受けた教育が卒後の職務へ十分役立っていると評価できる。一方で、主に臨床研修に従事する卒後1、2年目の卒業生にとって、いわゆる教養教育である総合科学系教育や複数の学問分野を融合した科目で構成される総合教育については、職務との繋がりを実感しにくいようであった。

6. まとめ

令和6年度医学部卒業生調査の結果をもとに、(1)医師・研究者を育成するという医学部のディプロマ・ポリシー (DP) および使命の達成状況、(2)卒業生の県内定着状況、(3)DPに定められた卒業時到達目標 (コンピテンシー) の達成状況と職務への貢献度、(4)医学部で受けた教育の職務への貢献度、という4つの観点から、本学医学部の教育評価を行った。

次ページ「表. 教育評価の結果概要」の通り、いずれの観点においても概ね良好な結果であり、本調査からは本学医学部は社会や地域で活躍する人材を輩出していることが明らかとなった。

コンピテンシーについては、特に「7 医療と社会・地域 (福島からの学び)」、「8 医学/科学への発展への貢献」の達成や活用がやや不十分であった点、「1 総合科学系教育 (語学)」、「2 総合科学系教育 (人文・社会科学、自然科学)」および「6 総合教育」の職務への貢献度が比較的低かった点は、R4年度と同様の特徴であった。

本調査は、住所 (勤務先または自宅) の明らかな同窓会会員を対象としていること、回収率が34.8%であることから、回答者 (標本) の卒業生全体 (母集団) の代表性については限界があり、結果の解釈

には注意が必要である。

なお、本別冊は調査結果の一部を活用した内容であるため、調査結果の全体については「令和 6 年度医学部卒業生調査結果」本編を参照いただきたい。

表. 教育評価の結果概要

医学部の教育評価の観点		代表的指標等
(1)	医師・研究者を育成するという医学部のディプロマ・ポリシー（DP）および使命の達成状況	回答者の就業率（臨床研修従事率）： 98% 大学院進学予定者： 39%
(2)	卒業生の県内定着（県内就業）状況	就業者の県内就業率： 62%
(3)	DP に定められた卒業時到達目標（コンピテンシー）の達成状況と職務での活用状況	1 プロフェッショナリズム：○ 2 生涯教育：○ 3 コミュニケーション：○ 4 知識とその応用：○ 5 診療の実践：○ 6-1 医療と社会・地域（住民健康・患者診療への貢献）：△ 6-2 医療と社会・地域（福島からの学び）：△ 7 医学/科学への貢献：△ ※肯定評価の割合が概ね 6 割以上を○、6～4 割を△、4 割未満を×とした
	DP に定められた卒業時到達目標（コンピテンシー）の職務への貢献度	1 プロフェッショナリズム：○ 2 生涯教育：○ 3 コミュニケーション：○ 4 知識とその応用：○ 5 診療の実践：○ 6-1 医療と社会・地域（住民健康・患者診療への貢献）：○ 6-2 医療と社会・地域（福島からの学び）：○ 7 医学/科学への貢献：○ ※肯定評価の割合が概ね 6 割以上を○、6～4 割を△、4 割未満を×とした
(4)	医学部で受けた教育の職務への貢献度	1 総合科学系教育（語学）：× 2 総合科学系教育（人文・社会科学、自然科学）：△ 3 生命科学・社会医学系教育：○ 4 臨床医学系教育（BSL は含まない）：○ 5 臨床実習（BSL）：○ 6 総合教育または上記以外：△ ※肯定評価の割合が概ね 6 割以上を○、6～4 割を△、4 割未満を×とした

7. 参考資料

- 1) 文部科学省中央教育審議会大学分科会：教学マネジメント指針。2020
https://www.mext.go.jp/content/20200206-mxt_daigakuc03-000004749_001r.pdf
- 2) 一般社団法人 日本医学教育評価機構：医学教育分野別評価基準日本版 Ver.2.36。2023
https://www.jacme.or.jp/pdf/wfme-jp_ver2.36.pdf

医学部の使命

「高い倫理観と生涯にわたる探究心を持つ医師を養成し、世界に知を発信する」

Fostering doctors with high ethical standards and a lifelong inquisitive mind, and disseminating knowledge to the world

医学部ディプロマ・ポリシー

福島県立医科大学医学部では、教育理念・目標として「心・知・技・和・地」を掲げ、患者に寄り添う医療人、保健・医療・福祉に貢献できる医師・医学研究者の育成に努めてきました。それを受け、本学では以下を満たす者に学士を授与します。

1. 患者と地域社会のために、患者を主体とした最善の医療を実践するプロフェッショナルとして、必要な倫理観の基盤・知識と技術を習得した者
2. 医学、医療の視点から、地域から世界に広がる社会貢献ができる医師・医学研究者の基礎として、科学的思考力および自律的に生涯学習を継続する姿勢を習得した者
3. 医学部履修規程に則り、卒業までに所定の単位を授与され、授業科目の修了認定を受けた者

到達目標（コンピテンシー）

1. プロフェッショナリズム
2. 生涯教育
3. コミュニケーション
4. 知識とその応用
5. 診療の実践
6. 医療と社会・地域（福島をモデルとした地域理解）
7. 医学/科学の発展への貢献